

フォレストボランティアの発足と今後の活動支援への一考察について

庄内森林管理署 砂山 隆司

1 はじめに

近年、森林・林業に関するボランティアによる取り組みが広がりを見せている中で、東北森林管理局において、平成12年10月に「森林保全等に係るボランティア活動実施要領」が制定されました。

一方、当署において昨年度実施した森林ふれあい活動に関する意識調査において、93%の人が森林ボランティアの経験がないと答えた反面、森林ボランティア活動に参加したいという意見が70%に達したことから、実施要領に基づき、今年度、「公募」によりフォレストボランティアを募集し、ボランティアの組織化を図りました。

しかしながら、フォレストボランティア発足後の活動をいかにして活性化させてくかが今後の大きな課題であると考えています。

このため、発足までの経過と今年度の活動状況、ボランティアとなった方々の意見等を取りまとめるとともに、管理署としての今後の活動の支援のあり方について考察したので発表します。

2 フォレストボランティアの発足までの経緯

(1) フォレストボランティアの募集

フォレストボランティアの募集は、平成13年4月15日から5月14日までの1ヶ月間と定め、まず、地域の方々に周知することから取り組みました。

PRに当たっては、PR効果として一番高いマスコミの方の協力が不可欠と考え、地元マスコミ関係者へ積極的にPR活動を行いました。その結果、マスコミ関係者の方々の反応は、いたって良好で、今の時代にマッチした取り組みとして地元新聞に大きく取り上げていただくことができました。また、各種会合の都度、職員ひとりひとりが積極的にPR活動に努めた結果、募集人員50名を上回る54名の方から応募があり、募集活動が大きな成果を上げるとともに、地域の方々の関心の高さを改めて知らされました。

(2) 応募者の内訳等

応募者54名の内訳を見ると、性別では男性が49名、女性が5名と男性からの応募が圧倒的に多く、予想されたこととはいえ、意外とボランティア活動が山での肉体労働といったイメージを強く受けた結果ではないかと考えています(図-1)。今後は、森林ボランティアの内容をより理解していただく取り組みを強め、女性の方々にも気軽に登録していただけるよう努力していきたいと考えています。

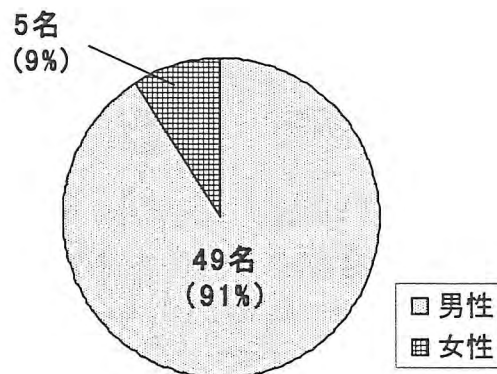


図-1 性別構成

年齢については、下は22歳から上は78歳と幅広い年齢層から応募があり、最も多い年齢層は50歳代で19人、全体の34%を占めました(図-2)。

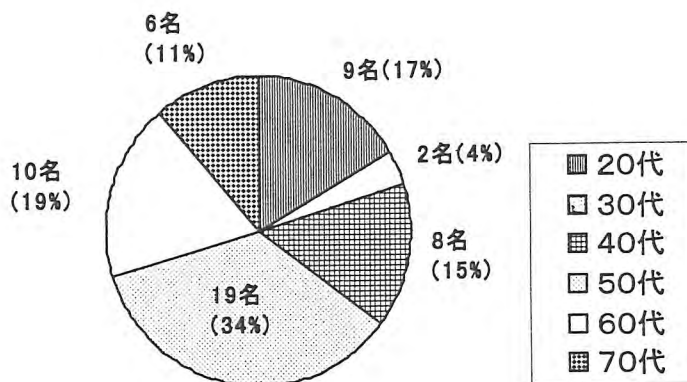


図-2 年齢別構成

職業別では、林業関係者や以前から庄内森林管理署と関係のある方が多くを占めましたが、中には、旅館業や教員、会社員、農業といった方もおり、日頃は余り森林・林業に関わりのない方も見られました(図-3)。

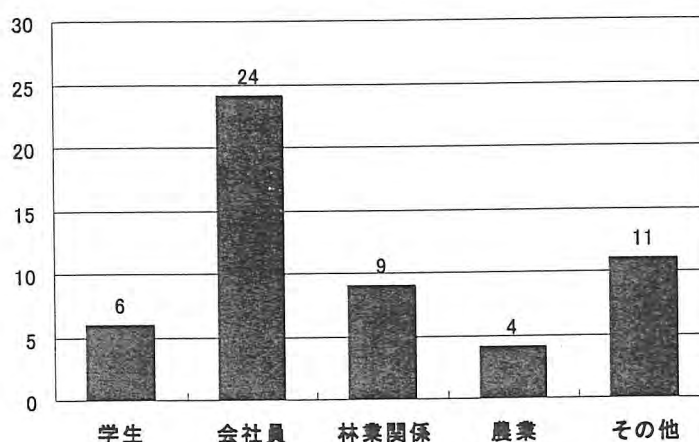


図-3 職業別構成

森林ボランティアに応募した動機については、①国民の森の適切な管理に少しでも役立ちたい、②ふるさとの森林を大切に守るため、森林教室等で啓発活動を行いたい、③高館山及び周辺の植物の盗採等を少しでも減らしたいなど、地域の国有林を守るために少しでも役立ちたいというものがほとんどであり、国有林を管理・経営するものとして、改めて責任の重さを感じるとともに、地域住民の方々からこれだけの応援をいただいたことに心強さも感じました。

森林ボランティアに応募した動機(主なもの)

- 国民の森の適切な管理に少しでも役立ちたい
- 森林の適切な管理のため、入林者への啓発活動に役立ちたい
- ふるさとの森林を大切に守るため、森林教室等で啓発活動を行いたい
- 高館山及び周辺の植物の盗採等をなくしたい

(3) 森林ボランティア発足式

平成13年6月7日には、森林ボランティアに応募していただいた方々にお集まりをいただき、当署会議室において、森林ボランティア活動登録証の交付と腕章の貸与等を行う森林ボランティア発足式を行いました。

当日は平日にも関わらず25名の方に出席していただきました。

また、当日は、地元の新聞記者など多数のマスコミ関係者からの取材もあり、発足式の模様はテレビ、新聞に大きく報道され、森林管理署の大きなPRとなるとともに、関心の高さを伺い知ることができました。

発足式では、まず、署長から、「皆さんの取り組みによって森林ボランティアの風が庄内はもとより県内外に伝わることを期待しています」との応募していただいたお礼と今後の活動への期待が述べられ、登録証と腕章を出席者一人一人に手渡したあと、出席者の自己紹介をしていただきました。

その際に、出席者からは、①高山植物が好きで山に登っているが、これを機会に森林保全に役立ちたい、②ボランティアへの参加を通じて、多くの自然にふれて見識を深めたい、③登録証と腕章をいただき、今後は、管理署から認定していただいた者として盗採等の巡視が行いやすくなるので、自覚と責任を持って取り組んでいきたいなどの、森林ボランティアとなった抱負が述べられ、今後の活動に大きな期待を持ちました。

3 森林ボランティアの活動状況等

森林ボランティア発足から半年が経過して、森林ボランティア活動の状況について取りまとめたので報告します。

活動の主なものは、林道や盗採防止などのパトロールが一番多く、次に鶴岡市民の憩いの場所でもある高館山での活動が目立ちました。

森林ボランティア活動の内容(主なもの)

- 朝日連峰盗採パトロール
- 朝日スーパー林道パトロール
- 大鳥池周辺のパトロール
- 朝日連峰の環境美化活動
- 高館山の標識整備及び草刈り
- 森林ガイド及び植樹指導

発足から半年ほどしか経過していないことや管理署としてボランティア活動に関して特段の取り組みを行ってこなかったこともあり、全体としては、活動はまだまだ低い状況であったように感じました。

そこで、今後の活動を活性化させるためにはどのような取り組みが必要なのかを検討するために、ボランティアの方々に今後の活動に向けての意見・要望を聞きました。

その結果、

- ①パトロールを森林管理署と合同でやりたい
- ②不法投棄の対応が大変なので何とかならないか
- ③他の同様な取り組みをしている方と交流を持ちたい
- ④ボランティア登録者同士の連携・交流を図りたい

などの意見が寄せられました。

中には、国有林野の場所を教えてほしいとの意見もあり、登録者の中にはとまどいも見られたことから、森林管理署としての対応が十分でなかった点を反省しています。

4 今後の活動支援への取り組み

ボランティアの方々や職員の意見を踏まえ、森林ボランティア活動の活性化のために、今後森林管理署としてどのような取り組みが必要かを検討しました。

(1) 情報の提供とボランティア登録者との交流の促進

ボランティアとなった方々は、それぞれ地域の森林を守るために少しでも役立ちたいとの思いが強い反面、どこでどのような活動を行ったらよいか分からない方もいることから、森林管理署から積極的な情報提供に努めることにより、ボランティア活動のフィールドを提供し活動が行われやすくすることが必要と感じました。

そのために、今後は「森林ボランティア通信」などの機関誌を定期的に発行し、森林管理署とボランティア登録者、ボランティア登録者同士の交流を図っていきたいと考えています。

なお、今年3月には、今年度の活動報告と来年度の活動について意見交換をする場を設けることとしています。

(2) 職員とボランティア登録者との連携の強化

ボランティアの方の中には、植物や昆虫など専門的な知識を持った方や木工技術の優れた方などがおられることから、森林管理署が行う森林教室や講師の派遣要請などに積極的に参加していただき職員とともに活動したり、管理署を通じてボランティアを紹介するなどの取り組みも行いながら、活動の活性化を図っていきたいと考えています。

(3) 他の団体との交流の促進

当署では、「出羽三山の自然を守る会」と協定を結び、「ふれあいの森」の活動を行っていますが、当署管内には、「森の達人」と称する森林、林業に関心のある方のグループや昨年庄内地方の有志により発足した「庄内海岸のクロマツ林をたたえる会」など、様々な森林・林業グループが組織されています。

ボランティアの方の意見にもあったように、これらの団体と森林ボランティアをいかにして結びつけ、交流を図り、より大きな輪としていくかが今後の課題の一つと考えています。

このために、森林管理署として、それぞれの団体との交流の場を設定する中で、管理署と団体、団体相互の交流が図られるよう努力していくことが必要と考えているところです。

今後、職員一人一人がさまざまな機会をとらえ、交流が活発となるよう取り組んでいきたいと考えています。

(4) 手続きの簡素化

ボランティアの方から、ボランティア活動に当たっての事前の届け出を不要としてほしいとの意見があったことから、ボランティア登録者への負担とならないよう、管理局とも相談しながら事前の届け出の省略などボランティア活動が気軽に行えるよう検討していきたいと考えています。

5 おわりに

ボランティア活動が全国的な広がりを見せている中で、当署の森林ボランティアは今年度発足したばかりですが、森林ボランティアに登録していただいた方々の気持ちを忘れずに連携を取り合いながらより充実したものとなるよう、今後とも努力していきたいと考えています。

